平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	まちづくりマーケティング演習 (Practice of Town Management)			授業コード	E046301
担当教員名	本村　裕之、今西　衛、山城　興介			科目ナンバリングコード	E31403
配当学年	3	開講期	前期		
必修・選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	地域マネジメントコースの学生は必修科目になっています。				
受講心得	この講義は、知識の習得ではなく、課題に対して創造的な発想による解決策を考えます。学ぶのではなく、解決するという姿勢で臨み、固定観念のとらわれず、自由な発想で参加してください。スライド作成などは、講義時間外に行って下さい。				
教科書	必要に応じて資料を配布します。				
参考文献及び指定図書	榎並 利博「地域イノベーション成功の本質」、第一法規、2013 寺谷 篤志 ほか「地方創生」から「地域経営」へ」、仕事と暮らしの研究所 、2015 橋本 行史 編著「地方創生の理論と実践 -地域活性化システム論- 」、創生社、2015 デービット・アトキンソン「イギリス人アナリスト国宝を守る」、講談社＋α新書、2014				
関連科目	社会調査法、まちづくりマーケティング、サービスラーニングIA,IB,II,III、プログラミング入門、プログラミング言語、データ解析A、システム分析論、地域経営論、地域イノベーション論				

授業の目的	まちづくりマーケティングの内容を踏まえ、大分都心部を中心としたフィールドワーク、演習を実施します。
授業の概要	本科目では、これまで地域で行われてきた実際の施策をもとに、地域で行うまちづくりや観光都市・エリアとしての観光まちづくりにどのような観点が必要で、どのような施策が効果的かを専門家を交えて議論します。そこで得られた知見を、まちづくりマーケティング演習を通じで実践していくことを目指します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 講義・演習の概要を説明します。	レポート提出(4時間)
第 2 週 ： 課題抽出 テーマを絞り、課題を抽出します	レポート提出(4時間)
第 3 週 ： 課題抽出 テーマを絞り、課題を抽出します	レポート提出(4時間)
第 4 週 ： 課題解決のために 課題解決のために何をすべきか議論します	レポート提出(4時間)
第 5 週 ： 課題解決のために 課題解決のために何をすべきか議論します	レポート提出(4時間)
第 6 週 ： そのほかに効果や課題は？ 皆さんで、そのほかにどのような効果や課題があるのか、考えてください。	レポート提出(4時間)
第 7 週 ： レポートの作成1	

以上の議論を踏まえ、大分駅ビル開業を客観的に捉えたレポートを作成してもらいます。ここでは、レポート作成上の注意点などを説明します。	レポート提出（4時間）
第 8 週 ： データ収集 データ収集作業を行います	レポート提出（4時間）
第 9 週 ： データ収集 データ収集作業を行います	スライドの作成（4時間）
第10週： 実査 アンケート調査を実施します。	スライドの作成（4時間）
第11週： データの分析 データを分析します	スライドの作成（4時間）
第12週： データの分析 データを分析します	データの収集（4時間）
第13週： データの分析 データを分析します	レポート提出（4時間）
第14週： プレゼンテーション プレゼンテーション	レポート提出（4時間）
第15週： プレゼンテーション プレゼンテーション	レポート提出（4時間）
第16週： 定期試験はありませんが、学内外での発表、演習の活動を重視します。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅰ：ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考	講義内容については、招聘講師の日程、進行状況などにより変更する場合があります。	

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	まちで起きている出来事を理解し、客観的に理解する力を身につけてもらいます。
【知識・理解】	まちの活性化で必要ななこと、マーケティングの知識を身につ行けてもらいます。
【技能・表現・コミュニケーション】	調査を行える技能、レポート、プレゼンテーションの表現力を身につけてもらいます。
【思考・判断・創造】	まちの活性化というプロでも難しい課題を、どのような切り口で考え、まちを経営するという視点からの政策提言などを身につけてもらいます。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**20点**	**20点**
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**10点**	**10点**
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**10点**	**10点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**	**10点**

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 （提出物）	Sレベル：　議論を超えて、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Aレベル：　内容を踏襲し、課題の解決のためそれを根拠づける説明がなされている。 Bレベル：　課題の解決手段はあるが、それを根拠づける説明が少ない。 Cレベル：　課題解決の提案がない
発表・その他 （無形成果）	Sレベル：　客観的な説明に加え、聴衆を引き付ける魅力的な発表を行っている。 Aレベル：　客観的に論理的に発表している。 Bレベル：　客観的ではないが、相手に伝わるよう発表している。 Cレベル：　発表の内容が相手に伝わらない。